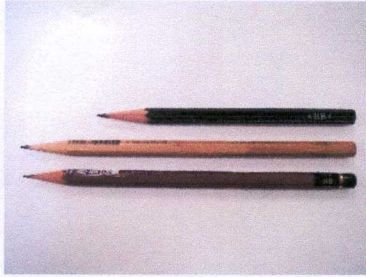




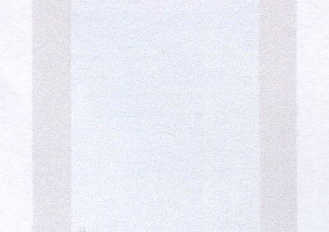


筆入れの中に入れておくもの

文房具の種類	それぞれの文房具についての説明など
	<p>【鉛筆】5本以上。筆圧が弱い場合は、2Bや4Bの柔らかい芯がいいです。キャラクターの絵や模様のないシンプルな鉛筆。キャラクターが描かれていると、勉強中にそちらに気が向いてしまい、学習内容が定着しません。短くなった鉛筆は字形を乱す原因にもなるので、適切な長さの鉛筆を持たせてください。2B以上というのは、子どもの筆圧をきちんとさせるためです。筆圧は、脳の前頭葉を刺激します。</p>
	<p>【消しゴム】よく消える白い消しゴム。香りがついていたり色がついていたりする消しゴムは、消えにくかったり香りに夢中になったりしてしまいます。よく消えることで、計算ミスや誤字脱字を最小限に防ぐことができます。簡単にきれいに消すことができるというのは、子どものストレスを軽減することにつながります。</p>
	<p>【定規】できれば10cmのミニ定規がいいです。子どもたちは、短いので片手で楽に扱えるだけでなく、ノートの上で滑りやすいために楽に線を引くことができます。15cmになると、子どもの手では扱いにくい場合があります。定規を使うことにより指先の神経が発達します。また、指先をつかうと脳に刺激が伝わり、脳の活動も活性化します。</p>
	<p>【赤ペンか赤鉛筆】丸つけの他に、めあてやまとめの文を囲むときに使います。赤ペンの優れている点は、大事な言葉を書く際に一定の細さで書くことができるという点です。赤鉛筆の優れている点は、色を塗らなければならない際に、きれいに濃淡を出せるという点です。青ペン（青鉛筆）についても同様です。</p>
	<p>【ネームペン】配布されたスキルやノートに名前をすぐにはけるようにするために用意します。時々子どもの筆入れを見てあげてください。かすれた文字になってしまうときには、新しいペンを買ってあげてください。左のネームペンは、ツイン式（細、極細）ですが、これでなくてもよいです。百元ショップでも売られています。</p>
	<p>【下敷き】無地の下敷きがいいです。絵や模様が入っていると、ついつい見てしまう子がいます。キャラクターの絵が描かれている下敷きならなおさら見てしまいます。「見ないようにしなさい」と言っても見てしまうものです。子どもが授業に関係ないことに神経を使わないようにするためにも、下敷きは無地のものがベストです。</p>

子どもの脳を学習に集中させるためにも、文房具は「シンプル イズ ベスト」です。